

[全専攻対象]

# 電子音楽の現在 2



Present from electro acoustic music 2

## カルロ・フォルリヴェジ

Carlo Forlivesi [イタリア国立アドリア音楽院教授]

イタリアの作曲家、演奏家、研究者。ボローニャ出身。ボローニャ国立音楽院を経てミラノ・G・ヴェルディ音楽院を首席で卒業、作曲修士号を取得。ローマ・アカデミア・聖チェチリアで作曲博士号を取得。フランスのIRCAM(ポンピドゥーセンター、音響音楽研究所)ブーレーズ、ドゥティエ、ファーニホウ、グリゼイ、ハーヴェイ、リゲティ、マヌリ、ムライ、リセ、ストロッパ、クセナキス、リゲティ、ジョルディ・サバル等に師事。デンマーク政府特別研究員としてDIEM(デンマーク電子音響音楽研究所)でコンピューター音楽の研究を深めた後、日本政府文部科学省政府給費生として、東京音楽大学大学院で湯浅譲二に師事。またアイヌ音楽の研究に取り組み、論文を発表。2005年アメリカフルブライトコミッション研究員としてノースウェスタン大学でオーガスタ・リード・トーマスに師事し研究。多数の受賞のほか、日本伝統音楽と舞踊、アイヌ音楽分野で研究を重ねる。作品は世界各地の音楽祭、劇場で定期的に上演されている。オーケストラ、合唱、室内楽、舞踊音楽、電子音楽、日本伝統楽器のために作品が書かれている。東京藝術大学、パリ国立音楽院、ソルボンヌ大学、アデレード大学、メルボルン大学、京都精華大学、京都市立芸術大学で講演。本学大学会館で電子音楽「レクイエム」が2012年5月23日に演奏されている。現在、イタリア国立アドリア音楽院教授。

IRCAM,DIEMで制作し、世界各地で上演され、本学大学会館でも日本でCD発売されている電子音楽 8ch再生による「レクイエム」が上演されたカルロ・フォルリヴェジによるelectro acoustic music 電子音楽の現在についての講演の第2回。

2011年3月11日に起きた東日本大震災を起点に、electronicsについて、人間について、表現について再考する機会とします。

専攻問わず、学生卒業生問わず、教職員問わず、興味をお持ちのかたはどなたでもお出てください。

午後は主に作曲専攻学生の電子音楽制作未経験者に対し、大学会館CM室での実習を行います。

[担当:中村典子 作曲研究室213 tel:075-334-2363]

2013年12月1日(日)11:00-12:30 講演 京都市立芸術大学大学会館交流室[全専攻]

13:30-16:00 実習 京都市立芸術大学会館CM室[作曲専攻]